

オオタカ *Accipiter gentilis* の巣における
兄弟殺しの観察

鈴木 伸¹

先にふ化したヒナがあとからふ化したヒナを攻撃して殺す兄弟殺しの現象は、多くの猛禽類で観察されており、ヨーロッパのオオタカ *Accipiter gentilis* やハイタカ *Accipiter nisus* などのハイタカ属 *Accipiter* でも兄弟殺しが生じていることが報告されている (Mock 1984)。日本では栃木県那須の3羽のヒナがいるオオタカの巣で大きなヒナが小さなヒナを激しくつつき、その後、巣から小さなヒナがみられなくなった例が観察されている (遠藤 私信)。したがって、日本のオオタカでも兄弟殺しが起こっていると予想されるが、これまでに確実な観察例はない。著者は埼玉県比企郡鳩山町の山林に営巣したオオタカの巣で、兄弟殺しの現場を確認したので報告する。

オオタカの巣は鳩山町の北東部に位置する物見山 (標高135m) 八合目の、直径約40cmの枯れたアカマツの樹上 (地上約10m) にあった。この巣はオオタカがこれまでも何回か繁殖にもちいているもので、1990年4月6日の発見時には親鳥が抱卵中であつた。観察は巣のあるアカマツから約150m離れた向かいの斜面に設置したブラインドから20倍のスポッティングスコープをもちいて行ない、同時にビデオ撮影を行なった。5月3日から7月1日まで、60日間、のべ160時間の直接観察と、16時間分のビデオ映像の解析から、オオタカの兄弟殺しの経過について以下のようなことがわかつた。

兄弟殺しの経過

この巣では5月14日に最初のヒナがふ化し、5月24日に最後のヒナがふ化するまで、順次4羽のヒナがふ化した。6月3日午後4時、第1ヒナ (20日齢) が巣にあった肉塊を摂食中、雌親が餌をもちかへて戻り、巣の端にとまつた。この時、第4ヒナ (10日齢) が親と第1ヒナの間に割りこむようにして、親に近づいた。その途端に第1ヒナから第4ヒナへの攻撃が開始された。第1ヒナは第4ヒナを引きずったり、おさえつけたりしながら、主に頭部を狙ってつつきをくり返した。攻撃は執拗をきわめ、約20分後には第4ヒナは完全に動かなくなった (この時点でこのヒナは死亡したと判断した)。この攻撃の間中、親は周囲を警戒するのみで、ヒナ同士の争いを止めるような行為はまったくみられなかつた。第4ヒナが動かなくなり、第1ヒナの攻撃がやむと、親は巣にあった餌をたぐりよせ、それを第1ヒナだけでなく、第2ヒナ、第3ヒナにも与え、自分も食べはじめた。

遠藤 (私信) は栃木県那須のオオタカの巣では繁殖期に霧の発生する日が多く、そのために親鳥が巣に餌をもち帰る頻度が少なく、それによる餌不足が兄弟間の争いの引き金になったのかもしれないと述べている。しかし今回の例では巣の上に餌はあつたのだから、第1ヒナの攻撃の原因は、少なくとも餌不足によるものではないと考えられる。攻撃が開始されたのは第1ヒナが餌を手に行っている時、第4ヒナが親と第1ヒナの間に割って入つた時であつたことを考えると、食物の所有権の侵害が、第1ヒナから第4ヒナへの直接の引き金になつた可能性がある。この考えは、このオオタカの巣では、

1990年11月10日受理

1. 〒350-03 埼玉県比企郡鳩山町楓ヶ丘4-2-15

親が餌を巣にもち帰ったとき、一番はじめにそれを確保したものが食べ、第2ヒナ、第3ヒナが餌を確保した場合でも第1ヒナはそれを奪いとったりしなかったことから支持される。

この報告をまとめるにあたり、原稿をみていただき、文献を教えてくださいました立教大学の上田恵介博士、また栃木県のオオタカについて貴重な情報を提供して下さった遠藤孝一氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

Mock, D. W. 1984. Infanticide, siblicide, and avian nestling mortality. *Infanticide: Comparative and Evolutionary Perspectives* (Housfater & Hrdy ed.) : 3-30. Aldine, NY.

An example of siblicide in the Japanese Goshawk *Accipiter gentilis*

Shin Suzuki¹

I observed a case of siblicide in the Japanese Goshawk *Accipiter gentilis* in Saitama, central Japan. Four chicks hatched in the nest successively. When the youngest chick was 10 days old, it was attacked and killed by the eldest chick (20 days old). The attack was induced when the parent came back to the nest without food and the victim came between the parent and the eldest chick. This is the first report of siblicide in the Goshawk in Japan.

1. 4-2-15 Kaedegaoka, Hatoyama, Hiki, Saitama 350-03, Japan